

KANTEI

NEWS

vol. **173**
2025

CONTENTS

倫理綱領

1 会長挨拶

2 理事会開催報告2024

5 委員会活動報告

7 研修開催予定

9 損害鑑定フォーラム特集

21 会員情報



公益社団法人 日本損害鑑定協会

鑑定協会 倫理綱領

(2021年3月25日 理事会承認)

◆前文

公益社団法人 日本損害鑑定協会（以下「本会」という）は、多発する自然災害をはじめとするさまざまな事故によって発生した損害に対して、公正且つ迅速な損害鑑定を推進し国民生活の安定・向上に貢献することを目的として事業を展開する。

そのために、会員及び会員に所属する損害鑑定人（以下「損害鑑定人」という）は、鑑定技能及び鑑定品質の向上に資する調査、研修に取り組むとともに、損害鑑定の健全な発展と社会生活の安定に資する公正・誠実・迅速な業務遂行を行う役割を担っている。

このような目的や役割を実現するにあたり、会員及び損害鑑定人は、損害を鑑定する専門家としての高度な知識、豊富な経験及び高いスキルを培うことで、公正且つ誠実な高い倫理性が求められる。そのため、会員等は、自らを律するとともに、社会の期待に応えるべく、ここに倫理規程・行動規範を定めるものとする。

倫 理 綱 領

第1条（使 命）

会員及び損害鑑定人は、公正・誠実・迅速な損害鑑定を行うことにより、健全な損害鑑定の実現と社会生活の安定に資することを使命とする。

第2条（使命の自覚）

会員及び損害鑑定人は、前条の使命を自覚しその達成に努める。

第3条（独立性及び信義誠実）

会員及び損害鑑定人は、職務上のあらゆる人間関係において、独立性を保ち信義に従い倫理的及び誠実に振る舞う。

第4条（法令等の遵守）

会員及び損害鑑定人は、各種法令等を遵守し、法令及び実務に精通するよう努める。

第5条（品位の保持）

会員及び損害鑑定人は、平素から常に人格形成と品位の保持に努める。また専門知識の研鑽及び実務経験の蓄積に努めると共に、本会が主催する研修に積極的に参加し、自己研鑽を重ね損害鑑定の品質の向上を図る。

第6条（信用の維持）

会員及び損害鑑定人は、業務を公正かつ誠実に行之、常に謙虚な姿勢を保持することにより、信用の維持に努める。

第7条（公益活動）

会員及び損害鑑定人は、その使命に相応しい公益活動に積極的に参加し、実践するよう努める。

会長挨拶



会長
太田 英俊

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は地震・台風・集中豪雨等による被害が多発した多難な1年となりました。被害を受けた皆さま方に、心よりお見舞い申し上げます。

自然災害をはじめ、さまざまな事故への対応で多忙を極める中、関係各位の多大なるご支援・ご協力により、去る11月2日に当協会の大イベントである損害鑑定フォーラムを、第10回の記念大会として開催することができました。

今回のフォーラムは、今後を担っていく中堅、若手鑑定人に対し、「過去の業務内容や環境、物事への取り組む姿勢等を伝えつつ、現在を見つめ直し、今後を考察していく」構成としたうえで、過去に取り上げたテーマの中から「地震関連」と「不正疑義対応」を取り上げ、続いて「鑑定人の将来像」を考察し、多くの参加者、視聴者より高い評価をいただきました。

当協会は、今年の10月に創立50周年を迎えます。損害鑑定業界の発展と当協会のあゆみを次世代に引き継ぐべく、50周年史の年度内の完成を目指しています。

また、継続的な専門教育体系(CPD)の充実・発展を目指し、生涯教育とスキルアップに重

点を置き、損害鑑定人に必要な知識とスキルを網羅した協会統一テキストは、本年の完成を目指しています。

近年は、ランサムウェア(身代金要求型ウイルス)攻撃による被害が急増し、鑑定会社においても対策が求められており、会員各社へ注意喚起やサポートを行なっています。

今年は、連携しているAICLA(Australasian Institute of Chartered Loss Adjusters オーストラリア連邦勅許鑑定人協会)が主催するACC(Asian Claims Convention アジア損害鑑定人会議)が、5月に大阪で開催されるため、当協会として開催を支援していきます。

今後も、協会内の各種委員会や、ワーキンググループ等の活動を通じ、さらなる教育研修体系の整備、女性活躍の推進、損害鑑定人の業務環境改善他の取組みについて、積極的に進めてまいります。

損害保険を取り巻く厳しい環境の中においても、当協会は公正・誠実・迅速な損害鑑定の推進を支援することにより、業界の健全な発展に寄与すべく、邁進していく所存でございますので、今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

本年も、皆さまが御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

理事会開催報告 2024

12月 定例理事会

【日時】 2024年12月10日(火) 13:30～17:10

【協議・決議事項】

1. 損害鑑定フォーラム開催報告、次年度運営方針について（決議）

- ・鑑定人の会場参加は180名前後、Web視聴は130名前後、オンデマンド視聴が150人前後であり、アンケート結果は好評。2025年度は田辺理事が委員長就任。委員へ藤原理事に就任いただきたい。

→ 全会一致で承認決議

2. ACC25（大阪）の集客対応・支援運営について（協議）

- ・日本開催であり、平日であるが多くの会員、鑑定人に参加いただきたい。早割適用は3月末まで。パネルディスカッションは、開催国として参加の可能性はある。キャパシティもあり、会員へ一次募集等を検討する。

3. 外部理事・監事の設置に伴う定款変更等について（決議）

- ・2025年4月の法改正により、理事、監事ともに、ガバナンス強化の観点より、協会外からの就任が必要となる。次期改選期から適用のため、当会は2026年6月の改選時となる。2025年6月の定時会員総会で定款変更が必要となる。報酬体系の検討も必要となる。定員数のみ、本理事会で決議し、定款等は、次回の理事会で協議、決議したい。

理事は現在の14名以内から15名以内へ変更

→ 全会一致で承認決議

監事は現在の2名以内から3名以内へ変更

→ 全会一致で承認決議

4. 地域懇談会の開催検討について（決議）

- ・アンケートで開催の要望はあり、理事会の検討事項等を伝達、会員の意見を聴取は必要であり実施したい。2025年3～4月に、東京、名古屋、大阪、福岡で開催としたい。

→ 賛成多数で承認、決議

5. サイバーリスク対応について（決議）

- ・鑑定会社がサイバー攻撃を受ける実態もあり、会員向けの事前対策の説明会等は必要。対策済みの会員もいると思われ、必要性や開催希望をアンケートで聴取し、実施要否を判断したい。

→ 全会一致で承認、決議

6. 認証制度研究の活動状況報告、今後のスケジュールについて（協議）

- ・鑑定人共通テキストの作成は、原稿執筆後に4次チェックまで完了。監修委員に割り振りを行い、監修を依頼する。出版後、テキストをベースに、認証制度全体の研修、試験等の仕組み作りを進めたい。

→ 全会一致で承認決議

7. 災害動員に関する建築士会との連携について（決議）

- ・当会、損保協会、建築士会連合会で、各々意向に相違がある。当会としては、首都直下地震、南海トラフ地震といった巨大地震発生時の、マンション一棟認定に限るスキームを前提として取組みを進めたい。前提が一致の後、詳細の検討、議論へ進みたい。

→ 全会一致で承認決議

8. 損保業務ペーパーレス化に伴う業務負荷増の実態について（協議）

- ・DX等システムが進行し、ペーパーレスで目に見えない発注が増え、鑑定人のストレスや負荷が増大していないか注視のうえ、今後論議していきたい。

9. 業務執行状況報告（決議）

業務執行理事の書面報告を確認する。

→ 全会一致で承認、決議

10. 委員会報告・情報共有

（1）総合企画委員会

①女性活躍WGの再開について

継続の決議をもって、第2期1回目のWGを開催。テーマが難しく、代表者宛てアンケートを取りテーマを検討していく。

(2) 教育研修委員会

① アドバンス研修等について

来年または次年度に、ツーバイフォー協会による研修、早稲田大学の教授による判例をベースにした研修などを検討している。2025年度のASC ベーシック、スタンダードは、2024年度と同様の予定である。ベーシックの受講要件は「実務経験1年以上」とする。

② カスタマーハラスメント研修の開催

2025年1月29日に実施する。

(3) 総務委員会

① 50周年事業について

50周年史は2025年6月完成を目指し作業中である。

② HP 改修作業について

2025年4月改訂に向け作業中である。会員専用HPは、内容をリニューアルし、鑑定人の利便性を高めていく。

委員会活動報告

教育研修委員会

2024年度のASC研修アドバンスは、既に募集を行いましたとおり、「寺社建築の修理」「火災モラル事案」「企業損害保険における損害サービスをめぐる諸問題」を実施します。総務委員会と共催で、昨今多く見られる「カスタマーハラスメント」への対応策を学ぶ、「カスタマーハラスメント対策」を特別研修として実施します。

2025年度の、ASC研修ベーシックとスタンダードは、2024年度から講座の変更等は行わず、実施いたします。ベーシックは、5月27日から30日の4日連続、損保会館の大会議室を会場として集合で実施します。スタンダードは、前半を6月11日から13日、後半を6月26日から27日とし、Web配信で行います。ベーシックは、講義の収録を、7月にオンデマンド配信で受講することも可能です。募集は、別途、ご案内します。

ASC研修アドバンスは、ツーバイフォー工法関連、鑑定業務に関わる判例関連といった、新たなテーマでの実施の検討を進めています。

地震保険損害認定基準研修は、前回にご案内のとおり、東京、大阪に加え、札幌で実施します。また、2025年度より、「地震アプリの使い方」の講義を追加します。日程は、別記の研修予定をご参照ください。

認証制度研究委員会

協会統一テキストの、2025年度の早期の発刊に向け、外部有識者を中心に構成した監修委員による監修を進めています。

2025年度は、認証制度そのものの研究と構築を進めていきます。

総務委員会

サイバーセキュリティ対策の説明会への参加希望が多く、専門事業者の複数社による説明会を2月に実施予定です。

2025年6月21日開催の、定時会員総会と当会設立50周年記念式典に向け、準備を進めています。4月には、新たなホームページが始動予定です。

総合企画委員会

女性鑑定人活躍推進WGの、第2期を開始しました。12月には、女性活躍に対する代表者アンケートへ、ご回答をいただきありがとうございました。回答内容からも、テーマを探し、論議を進めていく予定です。

フォーラム実行委員会

特集で記載のとおり、11月2日(土)に実施の損害鑑定フォーラムへは、会場、Web 配信を通じて、多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。アンケートでも高評価を多くいただきました。既に2025年度の損害鑑定フォーラム実行委員会が始動しています。2025年は11月29日(土)に開催いたします。2024年度に第10回の記念大会を迎えたのを機に、新たな試み等を検討していきます。

研修開催予定

【今後の開催予定】

2024年度の実施が確定している研修は、次のとおりです。

ASC 研修

コース名・講義名	内容	場所・日程
アドバンス 「寺社建築の修理」	寺社・仏閣の固有の部材や修理方法、宮大工について理解する。	1月23日(木) 13:00～17:00
アドバンス 「火災モラル」	火災モラル事案への対処のため、情報収集や対応手法などを習得する。	2月6日(木) 13:00～17:00
アドバンス 「企業損害保険における 損害サービスをめぐる諸問題」	企業損害保険契約の特徴、企業損害保険約款や損害評価における論点を理解する。	2月13日(木) 13:00～17:00

※いずれもWeb受講

特別研修

コース名・講義名	内容	場所・日程
カスタマーハラスメント対策	カスタマーハラスメントへの対応策等を理解する。	1月29日(水) 15:00～16:30

※いずれもWeb受講

2025年度の実施が確定している研修は、次のとおりです。

●ASC 研修スタンダード

日程：5月27日(火)から30日(金)

時間：10:00～17:00

講義形態：損保会館大会議室での集合受講

※2024年度と同じ、8講座の予定です。

※講義を収録したオンデマンド配信で、7月に受講することも可能です。

●ASC 研修ベーシック

日程：6月11日(水)から13日(金)および6月26日(木)から27日(金)

時間：10:00～17:00

講義形態：Web配信による個別受講

※2024年度と同じ、10講座の予定です。

●地震保険損害認定基準研修

月日	時間	講座名
大阪 4月21日(月) 東京 7月7日(月) 札幌 7月28日(月)	10:00～12:30	在来軸組工法
	13:30～16:00	枠組壁工法
	16:00～17:00	地震アプリ
大阪 4月22日(火) 東京 7月8日(火) 札幌 7月29日(火)	10:00～12:00	鉄骨造
	13:00～15:00	傾斜計測方法
	15:00～17:00	鉄筋コンクリート造

第10回 損害鑑定フォーラム特集



The 10th
SONGAI KANTEI FORUM 記念大会
第10回 損害鑑定フォーラム

テーマ
「飛翔」
～記録と記憶を次の世代に～

2024
11.2 (土)
10:00～17:00
(開場9:30)

会場
御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター2F
「sola city Hall」
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

主催
公益社団法人 日本損害鑑定協会
後援
一般社団法人 日本損害保険協会
一般社団法人 日本損害保険代理業協会
株式会社 保険毎日新聞社
一般社団法人 外部損害保険協会
公益社団法人 全国消費生活相談員協会
株式会社 新日本保険新聞社

プログラム

組合司会 株式会社 三和鑑定事務所 押谷 将
株式会社 テーエム 丹野 あずか
※プログラムの内容は、事情により変更が生じる場合があります。(敬称略)

10:00-10:20
◆ オープニング
開会挨拶
祝辞
公益社団法人 日本損害鑑定協会 会長 大田 英俊
一般社団法人 日本損害保険協会 専務理事 大知 久一
Australasian Institute of Chartered Loss Adjusters
会長 Nicholas Ackers
内山 鑑定 株式会社 代表取締役 内山 真

10:20-10:30
◆ 第1回から第9回のアーカイブ
損害鑑定フォーラム実行委員 丹羽 周一

10:30-11:45
◆ I. 次代につなぐ志 (1) 過去の地盤を未来の目標に
過去の“地盤”の鑑定経験をもとに、未来の“自衛”につなげるにはどうすべきかを考える。
【協力いただいた方】
株式会社 アス力総合鑑定 山本 浩貴
株式会社 三和鑑定事務所 辰巳 雄一郎
【ワーキンググループ】
(リーダー) 株式会社 甘肅鑑定事務所 工藤 浩貴
株式会社 山貴総合鑑定 森 貴史
株式会社 名 鑑 山川 慎介
株式会社 高本損害鑑定事務所 山本 幸

11:45-13:00
◆ 休 憩 協賛企業紹介・新会員紹介・新理事紹介

13:00-14:45
◆ I. 次代につなぐ志 (2) 先駆者の経験から知る、事業と報酬の本質
過去、量も多く取りあげた不正請求取扱い事業への、今後の対応を考える。
【協力いただいた方】
株式会社 損害保険リサーチ / 総務部長 松本 康則
【ワーキンググループ】
(リーダー) 株式会社 東 鑑 井上 恵一
株式会社 アス力総合鑑定 鈴木 淳也
株式会社 甘肅鑑定事務所 小森 成示
株式会社 山貴総合鑑定 谷藤 栄士

14:45-15:00
◆ コーヒーブレイク

15:00-16:50
◆ II. 鑑定人の将来像～歴史から見た未来へのヒント～
損害鑑定人の将来はどのようなのか、課題を克服、未来を考える。
【協力いただいた方】
プロトトマソコンサルティング合同会社 執行役員 福島 渉
【ワーキンググループ】
(リーダー) 株式会社 高本損害鑑定事務所 阿高 花月
株式会社 山貴総合鑑定 飯田 篤
内山 鑑定 株式会社 佐藤 希之
株式会社 中央損害鑑定 角崎 幸一郎

16:50-17:00
◆ 閉会挨拶
公益社団法人 日本損害鑑定協会 副会長 田中 公成



開会前の会場



まえがき

2024年11月2日に、「第10回損害鑑定フォーラム」を開催しました。

2014年に第1回を開催し、回を重ね、途中、コロナ禍による中止、Web配信のみといった事態を乗り越え、第10回の記念大会としました。

一般社団法人日本損害保険協会の大知久一専務理事、AICLA (Australasian Institute of Chartered Loss Adjusters) のニコラス・アッカーズ会長から、祝辞をいただけるなど、記念大会に相応しい、華やかな開始となりました。

「飛翔 ～記録と記憶を次の世代に～」のメインテーマのもと、様々な観点から、鑑定業務や鑑定人の過去を知り、ヒントを得て、将来を考えると、正解のない世界を、WGメンバーは論議してきました。参加された方々にとりましても、日々の鑑定業務に役立つ知識というよりは、“鑑定人”や“鑑定人人生”そのものを考えるきっかけを、得るようなフォーラムとなったと思われます。

ご後援、ご協賛、ご支援を賜りました皆さま、関係団体の各位へ、改めて御礼申し上げます。



太田会長



田中損害鑑定フォーラム実行委員長



日本損害保険協会大知専務理事



AICLA ニコラス・アッカーズ会長



第1回開催発起人メンバーの内山鑑定・内山社長

Sola city Hall

イントロダクション

第1回から第9回までのアーカイブを行いました。

2014年の第1回では、東日本大震災の発生から近かったこともあり「地震」がテーマとなり、以後、地震は、テーマとして3回に亘り取り上げました。その他に、モラルリスクへの対応、法律の専門家による特定修理業者（保険金請求サポート業者）の違法性の認識、落雷事故や電氣的・機械的事故など特定の保険事故形態への対応、損害額の算定に関わる諸問題など、幅広いテーマに取り組んできたことがわかりました。



丹羽フォーラム実行委員



I. 次代につなぐ志 1. 過去の地震を未来の自信に

近年の地震多発の先駆けとなったような阪神・淡路大震災（1995年発生）の損害調査を経験した大ベテランのお二方に、当時の状況などを伺いました。2024年1月に発生した能登半島地震を経験した中堅鑑定人2名に加わっていただき、損害鑑定人が地震の立会業務に臨むに当たり、自信が持てるように、“心・技・体”の3つの側面から検討、論議しました。



名鑑・山川鑑定人



山貴総合鑑定・森鑑定人



高本損害鑑定・山本鑑定人



アスカ総合鑑定・山本鑑定人



三和鑑定・辰巳鑑定人



甘糟鑑定・工島鑑定人

損害鑑定フォーラム後記

過去9回のアーカイブから地震関連をテーマに選びましたが、内容は幅広く、どのような内容を取り上げるべきかを打合せする段階から、多くの迷いや議論があり、最終的に今回取り上げた内容に行きつくまで、正直言って大丈夫かな、と思い悶々とする日々が続いていました。そのような中、多くの方にご支援とご協力をいただき、メンバーとの打合せを繰り返し行っていく中で、今回の形が出来上がり、興味深い内容を提供することができたと思います。

私自身は、地震保険・調査についてより深く考え掘り下げて調べたことで知見が広がり、また新しい発見もあつたりと、ここでの費やした時間は自分にとって大変貴重なものになりました。最後に、フォーラムのワーキンググループの取り組みは大変なものですが、テーマに沿った内容の知見を広げることができ、他の事務所の鑑定人との出会えることができるのは、鑑定人として貴重な経験であり、今後の財産となっていきます。是非とも、年次の浅い鑑定人の方にもどんどん挑戦していただきたいと思います。

ワーキングリーダー 株式会社甘糟鑑定事務所 工島 浩資

I. 次代につなぐ志 2. 先駆者の目線から知る、事案と物事の本質

保険金の不正請求事案への対応は、時代が進んでも、鑑定人の業務と縁がなくなることはなさそうです。損害鑑定人の立場で、不正請求事案を多く対応しているベテラン鑑定人に、事案や相手方へ向かう姿勢等を伺い、調査会社の立場で、株式会社損害保険リサーチの松本康則人材開発部長に観点等を伺い、その後パネルディスカッションで、損害鑑定人は何ができるか、を論議しました。



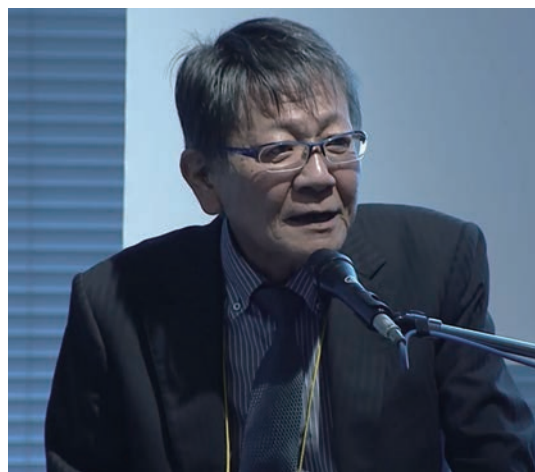
アスカ総合鑑定・鈴木鑑定人



山貴総合鑑定・谷藤鑑定人



甘糟鑑定・小森鑑定人



損害保険リサーチ・松本人材開発部長



東鑑・井上鑑定人

損害鑑定フォーラム後記

損害鑑定フォーラムは研修ではないので、調べてきたことを発表するだけではなく、視聴者も含めて皆が考えを深められる場にしよう、という方針が私たちの出発点でした。

「モラル」は人によってイメージの差が大きく、議論の方向性も多様なため、議題の設定にとっても難航しました。本番の日程が迫る中、多くの打合せを繰り返し、大筋が決まったのはなんと本番の3日前という状況でしたが、メンバーで集まって行う打合せは、鑑定人の本音が飛び交い非常に面白く、この雰囲気の本番当日にそのまま見せたい、という気持ちを強く持つようになりました。

第一人者へのインタビューやディスカッションでは、偉大な先達から仕事に対する考え方や志を伺うことができ、とても貴重な経験でした。時に優しく、時に厳しいお話をいただき、感じ方は人それぞれと思いますが、いろいろなことを考えるきっかけになったのではないかと感じました。

このような先達の志を受け継いで、私たちが今後の業務に取り組む原動力としていければ、大変価値のあることではないかと思っております。

ワーキングリーダー 株式会社東鑑 井上 恵一

II. 鑑定人の将来像 ～過去から見た未来へのヒント～

約80年に亘る、日本の損害鑑定人の歴史を紐解き、そこに将来のヒントがないかを探りました。その後、保険業界の知見の豊富な、デロイトトーマツコンサルティング合同会社の執行役員であり、保険インダストリー部門の福島渉リーダーに参加いただき、世界や日本の保険業界、保険金支払部門の潮流、損害鑑定人の考える視点等への助言をいただきながら、パネルディスカッションで、私たち損害鑑定人の将来像を論議しました。



中央損保鑑定・角崎鑑定人



内山鑑定・佐藤鑑定人



山貴総合鑑定・飯田鑑定人



デロイトトーマツコンサルティング・福島執行役員



高本損害鑑定・阿高鑑定人

損害鑑定フォーラム後記

「業界のため、会社のため、そして自分のために協会活動に参加したい」と志望理由書に書き、始まったフォーラム活動でしたが、有り難いことにリーダーを務めさせていただき、想像以上に濃い経験を得ることができました。個性豊かなメンバーと、まさに“アツイ”7か月間を過ごさせていただきました。

「鑑定人の将来像」というテーマはかなり自由度が高いものでしたが、2024年4月の時点で、11月の本番まで、月に2回のワーキング日を予め決め、業者さんからの工程表を作り、角崎さんが導入した「Notion」という多機能クラウドツールを駆使し、業界の将来を議論するにふさわしく、近未来的にプロジェクトを推進いたしました。

鑑定業界の「これまで」を振り返る時間は、鑑定人歴5年目の私にはかなり貴重で、学びあるものでした。私たちの仕事の“芯”の部分はあまり変わってない、と結論づいた時、不思議な安心感に包まれました。これから、「社会的な変化やテクノロジーの進歩に影響される面はあるかもしれないけれど、顧客から求められることに大きな変化はないだろう」と信じたいです。

ワーキングリーダー 株式会社高本損害鑑定事務所 阿高 花月

第10回 損害鑑定フォーラム特集



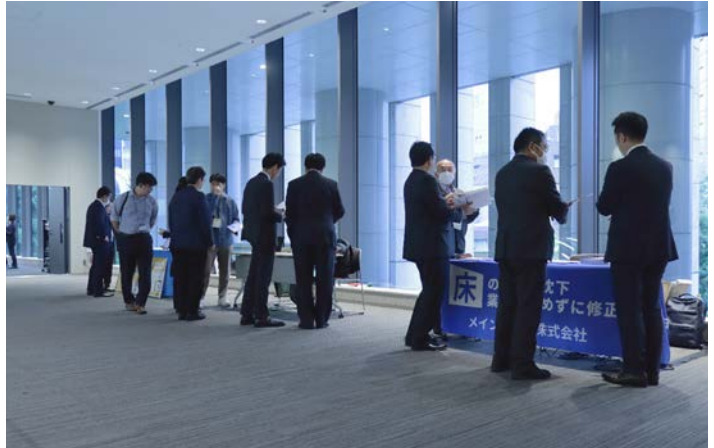
総合司会 三和鑑定 押谷鑑定人



総合司会 デーエム 丹野鑑定人



第10回 損害鑑定フォーラム特集



フォーラム実行委員、WG、総合司会のメンバー

■拠点所在フロア変更

(2024年10月24日)

内山鑑定株式会社 本社・東京本部

新フロア ニッセイ溜池山王ビル8階

※クレームマネジメント本部は、従来のニッセイ溜池山王ビル2階

■拠点所在ビル名変更

(2024年11月1日)

有限会社酒井鑑定事務所 京都営業所

新ビル名 関電不動産京都ビル

(2024年12月1日)

株式会社福岡損保鑑定 宮崎支社

新ビル名 KASUMAMIKI EAST BLDG.



公益社団法人 日本損害鑑定協会

2025年2月1日

公益社団法人 日本損害鑑定協会

〒101-8335

東京都千代田区神田淡路町2-9 損保会館12階

TEL03-3254-6454

<https://www.laaj.or.jp/>